
SweetStory

桜恋木の葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SweetStory

【Nコード】

N6730G

【作者名】

桜恋木の葉

【あらすじ】

昔話が今のお話だったら・・・？パシられシンデレラにちやほやされる白雪姫。いろんなお姫様のお話。短編集です。

シンデレラのお話。(前書き)

いろんな童話のお姫様を

現代風にアレンジした

短編集・・・のつもり。

初心者なので文がヤバイです。

それでもいいよ！というひとは「ゆっくり」。

シンデレラのお話。

私は揺枝瑚亜。ゆりえこあ

いつもの様に雑用をこなす・・・はずだった。

えーと・・・

誰かこの状況を説明してくれませんか？

「こんな小さい子相手になかなかひどいんじゃないの？」

「ハア？アンタ関係ないでしょ？」

最初に口を開いたのはさつき私を

かばってくれた人。たしか結城くん。

さつき焼きそばパン買いそびれて

ビンタを食らわされるっ！と思い

目をつぶったらいつの間にか目の前にいた。

「そうですよ！あなたは関係ないです！

私は助けてなんて言ってないし、

迷惑ですからやめてください！」

迷惑だなんて思っていない。

ただ、目の前にいる人が傷つかない事を

ねがいながら、なんとなく言った言葉だった。

でもその人には勿論その意味は届かずに

しかめ面をされてしまう。

「……へえ、いうじゃん。」

ついでにその勢いでこいつらにも言ったら？本心。」

……は？

何言い出してんの、と思ったのもつかの間。

「瑚亜、なんか言いたいことあるの？」

迫ってくるケバケバしい顔。

今日も化粧に余念が無いですね。

なんだかこんな奴らのいう事を聞いている私が

ものすごく馬鹿馬鹿しくなってくる。

* * *

結局言っちゃいました。

顔真っ赤にして怒ってた。うん。

・・・これからどうしょ？

「よ。さっきの剣幕凄かったな。」

「・・・結城君、あなたのせいですが？」

特に悪びれてもない様子で

ごめんといわれる。

「心のこもってない謝罪はいりません。」

でも、あなたのおかげで私は変わりました。

その辺はお礼を言わせていただきます。」

心からの気持ちと少しの嫌味を兼ねて

とびきり笑顔で言っちゃった。

そうするとその人はバツと

顔を背けてしまった。

そんなにひどい顔してたかなあ？

「・・・なあ、言いたいことがあるんだけど。」

好きだよ。」

「・・・は？」

本日二回目の思考停止。

今日はいろいろありすぎて頭が回らない。

私の王子様は、魔法使いでした。

f i n

白雪姫のお話 (前書き)

こちらは男視点になっています。
男視点がいや、という方は
回れ右をしましょう。
では、駄文ですが
お楽しみください。

白雪姫のお話。

三河高校2年、うつみゆうり内海悠里

超絶美貌の持ち主。

彼女の周りには男も女もいた。

成績も優秀。

でもそんな彼女の瞳には、

輝きは無かった。

* * *

「お前、内海さん狙いだろ？」

止めとけよ。あの人気だし、高嶺の花だぜ？」

「やめとけって言われても無理だろ。」

人の気持ちにブレーキがかけられると思ってんの？」

それに生半な気持ちじゃない。

そういうと、そいつは肩をすくめて言ってしまった。

あいつ、内海悠里はなんか、

人に囲まれて、

人気があつて、

それでも、なんか冷めていた。

群がる人たちを見て、

あざ笑っているようなかんじがして

頭の中を離れない。

・・・あの冷めた瞳に、光を灯したい。

彼女に世界のすばらしさを見せてやりたい。

本当の彼女の笑顔を

見てみたい。

そう心から思っていた。

気付いたら目で追っていた。

そして気付いた。

これは確かに恋なんだと。

「・・・よし！」

* * *

無い勇気を振り絞りながら

彼女の教室まで足を運ぶ。

幸い彼女は残っているようだった。

「・・・はあ。今日も疲れた。」

へらへら笑うのはやっぱり疲れるわ。」

そんな声が聞こえる。

こんなところが内海信者に見られたらやばいんだろうに。

そんなことをのんきに考える。

「・・・？そこに誰がいるの？」

内海がこちらに気付く。

やってやるさ。

そう思いながら足を踏み出す。

毒林檎から助けてやるよ。

f i n

人魚姫のお話（前書き）

お久しぶりです。

ブランク入ってるので文が変わってるかもしれません。
それでもいいよ！という方はどうぞ。

人魚姫のお話

眺めるだけ。

ただ眺めるだけなのに

全然苦じゃないのは

私が貴方にはまっけてしまっている証拠なの。

私は睦月藍砂^{むつきあいらい}。

一つ上の先輩に片思い中の女の子です。

先輩にはいっぱい女の子がいて、

友達もあんな奴、というけど

私にとっては王子様で、

どうしようもないくらい好きなのです。

つい先日先輩が、

私が見ていたことに気付いて

「君も僕と一緒にいる？」

と聞かれて

即答でした。

「・・・いいえ。」

見てるだけでもバツクバクなのに

近くとか私死んじゃいます。

ということでも今日も眺めます。

「ねえ。」

話しかけられて頭を後ろに向ける。

こんな私ですが社交性はあるつもりです。

「ハイ、なんですか？」

「何であいつの近くに行かないの？」

「心臓が持たないからですよ？」

「・・・そうなんだ・・・」

「それがなんですか？」

「ホントは近くに行きたいだろ？」

むう、当てられてしまいました・・・

「ホントは嫌なんだけどな・・・（ぼそ

僕が魔法かけてあげるから行ってきなよ。」

魔法？こいつ頭おかしくなっちゃったのですかねえ？

そう思っているといつの間にかこいつの顔が近くて。

「大丈夫。ちゃんと可愛いから。」

くすくす笑いを含んだそれを聞いて、

私は先輩のほうにかけていきました。

うなづくのを忘れずに。

・・・ちよっとときめいたのは内緒です。

もし泡になっても、貴方に掬われてやります。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6730g/>

SweetStory

2011年1月11日16時54分発行